

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	編集後記
別タイトル	EDITORIAL POSTSCRIPT
作成者（著者）	東邦大学医学会編集委員会
公開者	東邦大学医学会
発行日	2022.09.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 69(3).
資料種別	その他
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD49456607

編集委員会

編集委員長：中野裕康

編集委員：赤羽悟美

狩野修

内藤篤彦

高橋寛

編集顧問：伊豫田明

弘世貴久 池田隆徳

片桐由起子 近藤元就

南木敏宏 佐藤二美

和田弘太

津熊久幸

(ABC 順)

編集後記

本号には衛生学教室から 2 編の疫学研究が掲載され興味深く拝読した。

昨今、若手の医師から学会発表、論文投稿が大変になったと愚痴をこぼされる。

これは当科だけの問題ではなく、基礎医学、臨床系講座の全てに当てはまる問題だと思われる。

昨今では、学会発表にあたって、抄録を登録する段階で学会事務局から倫理申請の有無を問われるようになっていく。

10 年前までは、学会の演題登録が少ないと主幹施設から追加演題登録の要請があり、各施設から慌てて追加演題の登録をしたものであった。

しかしながら現在ではこのようなことは許されなくなっている。

研究を行うにあたって、まずは研究計画書を作成し、倫理委員会に申請し承認を得てから研究を開始しなければならない。

本学では研究倫理について学ぶために、研究者は毎年 eAPRIN の受講が義務付けられている。

さらに研究計画を立案する段階では、2021 年に発出された人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針・ガイダンス、2022 年 4 月に改正された個人情報保護法に従って計画を立てなくてはならない。

また、発表内容に関する企業との利益相反 Conflict of interest (COI) の開示も義務付けられている。

研究者がこれらの手続きを怠ってしまった場合、非常に

優れた論文であっても Reject されてしまうし、万が一論文が Accept されたとしても学位申請の際に手続きの不備が明らかになった段階で学位申請は却下されることになる。

巻頭で大橋膠原病科の亀田先生は研究発表の楽しさ、論評では薬理学教室の杉山先生は研究者としての論文を書くことの大切さについて触れられていた。

自分で発表し、その内容が論文化され、検索サイトでその論文が出てきた時の達成感、喜びはひとしおである。

若手研究者を育てるため、研究、発表の楽しさを教えるため、まずは指導者である我々が、最新の倫理指針などを理解し、発表、論文投稿の作法を若手に指導しなくてはならないと痛切に考えるこの頃である。

(高橋 寛)

東邦医学会雑誌 第 69 巻 第 3 号

令和 4 年 9 月 1 日発行

編集兼
発行人 中野裕康〒143-8540 東京都大田区大森西 5 丁目 21 番 16 号
東邦大学医学部 2 号館 M1 階 医学メディアセンター内

東邦大学医学会

(振替口座 00190-6-95793)

tel. 03-3762-4151 ex. 2465/fax. 03-3764-1642

e-mail: igakukai@med.toho-u.ac.jp

http://tms.med.toho-u.ac.jp

東京都北区西ヶ原 3-46-10

株式会社 杏林舎